

一関市総合計画前期基本計画(素案)に対するご意見の概要及びご意見に対する考え方

パブリックコメント募集期間: 令和7年8月4日(月)から令和7年8月22日(金)まで

提出された意見数: 10件

- ・一関市総合計画の策定については、令和6年4月に市から一関市総合計画審議会(以下「審議会」)に諮問をしています。
- ・一関市総合計画前期基本計画については、令和7年10月に審議会から市に対し答申される予定です。
- ・今回のパブリックコメントは、審議会で作成した案を市がパブリックコメントに付したものです。
- ・「ご意見に対する考え方」は、審議会で議論した内容をまとめたものです。

番号	ご意見の概要	ご意見に対する考え方
1	<p>19ページ 生涯学べる環境づくり</p> <p>「取り組みの方向性」について、市民センター、図書館、博物館は同じ社会教育施設なのにも関わらず横の連携がない。施設の改修整備の前に社会教育の基本的な考え方「ひとづくりはつながりづくり」を大切に、もっと連携を取る(一緒に考える)ことで市民の方に質の高い教育を提供できると考える。</p>	<p>一関市総合計画基本構想に掲げる将来像や基本目標を達成するためには、社会教育施設間の連携は重要な視点と考えております。</p> <p>いただいたご意見の計画への反映について検討いたします。</p>
2	<p>12ページ 重点プロジェクト</p> <p>新聞で、経済産業省が推進する「洋上風力発電」の部品工場誘致に向けた取組について読んだ。大規模な工業団地の整備には、国や県の補助金の活用が必要である。民間企業や一関高専と連携し、太陽・風力・水力などの自然エネルギーによる電力供給を実現できれば、市民の電気代負担が軽減され、移住希望者の増加も期待される。光熱費削減政策は県外への人口流出の抑制につながる可能性がある。2040年の人口減少に対応するには、新産業の創出、賃金向上、生活支援が不可欠である。今後10年間での人口減少を見据え、長期的な視点での検討をお願いしたい。</p>	<p>一関市総合計画基本構想に掲げる将来像や基本目標を達成するためには、再生可能エネルギーの導入は必要な取組であると考えております。</p> <p>いただいたご意見に関する基本的な考え方や方向性は本計画に含まれていると捉えております。具体的な施策については、今後、市において検討、推進される予定です。</p>

番号	ご意見の概要	ご意見に対する考え方
3	<p>16ページ 結婚と出産の選択の尊重、支援 取組の方向性「結婚を希望する人への支援」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・結婚に向けた活動しやすい環境整備 <p>Iサボ岩手と連携した一関の情報や入会補助金のお知らせ、FMあすもを活用した婚活番組などによる積極的な情報発信、広報いちのせきスタイルの特集で少子化対策と人口減少対策</p> <p>22ページ つながる機能の整備 取組の方向性「道路ネットワーク整備」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県道一関大東19号 生出バイパス(摺沢一柴宿)の整備 ・柴宿駅と道の駅だいたうを最短で結ぶ道路、県道19号+国道343号一関市陸前高田市間の高規格道路、以前構想があった北緯39度県南横断自動車道(平泉一陸前高田)で観光ルート整備 ・新笹ノ田トンネルもILC誘致で重要路線となると思う ・公共交通ネットワークの維持確保 <p>千厩室根一盛岡高速バスの復活を奥州市と一緒にバス会社に要望してほしい 道の駅だいたうに路線乗り入れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県道一関北上線14号、国道343号、国道456号道路整備と公衆トイレ整備 <p>22ページ つながる機能の整備 取組の方向性「情報通信ネットワークの利活用」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JR大船渡線のトンネル、県道一関大東19号新狭山トンネル内、国道343号猿沢トンネル内、鳶ヶ森トンネル内のエリア拡大 ・高速通信できる5G携帯中継所を大東町(大原、興田)に整備してほしい。 ・誰もが情報通信端末を日常生活を便利に使うことができる知識とスキルの取得支援 <p>32ページ 商業、観光業の振興</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「商店街におけるにぎわい創出と空き店舗対策」とあるが、山形県酒田市の例のように、県外企業との協定により、一関商店街にポップアップストア店して開業し、将来的には一関駅東口NEC跡地に一関駅直結の東北最大級の店舗を誘致してはどうか。 <p>34ページ 多様な働く場づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しい企業の誘致には時間かかるので、地元に残りながら都会に多い職種に憧れる若者に新幹線通勤の補助をしてほしい。奥州、金ヶ崎、北上の半導体、自動車集積している工業団地に一関市内から通勤している人が多くなっているため、岩手県県南の広域で働きができる一関市にしてほしい。 	<p>一関市総合計画基本構想に掲げる将来像や基本目標を達成するためには、結婚に向けた活動がしやすい環境の整備や道路の整備などは必要な取組であると考えております。</p> <p>いただいたご意見に関する基本的な考え方や方向性は本計画に含まれていると捉えております。具体的な施策については、今後、市において検討、推進される予定です。</p>
4	<p>17ページ 子育てしやすい環境づくり</p> <p>市内では近年公園の老朽化等で親子で安心して遊べる公園が減っているように思う。また、暑さ対策などで室内で遊ばざるを得ず、市内では親子で遊べる室内での施設が限られているため、その辺りも考慮して子育てをしやすい環境づくりに取り組んでほしい。</p>	<p>一関市総合計画基本構想に掲げる将来像や基本目標を達成するためには、子育てをしやすい環境づくりは必要な取組とと考えております。</p> <p>いただいたご意見に関する基本的な考え方や方向性は本計画に含まれていると捉えております。具体的な施策については、今後、市において検討、推進される予定です。</p>

番号	ご意見の概要	ご意見に対する考え方
5	<p>12ページ 重点プロジェクト</p> <p>重点01 若者女性外国人が輝けるまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者への配慮が欠けており、「誰もが暮らしやすいまち」とは言えない。 ・TGC teenなどのイベントは見栄え重視で、実質的な成果や住民への還元が不透明。税金の使途や負担額(1億円超)に疑問があり、情報公開も不十分である。 ・地元の魅力や住民の声に気が付かず東京の模倣ばかりでは、まちの個性が失われる。 <p>重点02 ILCの実現を見据えたまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ILCはすでに現実味がなく、住民の関心も薄れている。 ・国や学術会議でも取り上げられず、重点プロジェクトにするのは住民感覚と離れすぎている。 ・ILCが頓挫した場合の代替策も不明で、まちづくりの継続性に不安がある。 <p>重点03 駅東口工場跡地の利活用などによる一関周辺のまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一関駅東口イノベーション構想検討委員会の報告書を見たが、これもILCを軸にしたものとなっており、住民感覚と離れすぎている。 ・委員の選定にも疑問がある。 ・東京の人頼みではなく、地元住民との対話を重視すべきである。 <p>重点プロジェクト全体について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民との対話・共創を重視した「with住民」の姿勢が必要。 ・コンサル任せや一過性のイベントではなく、地に足のついたまちづくりを進めてほしい。 ・千厩の一般廃棄物最終処分場の問題も、住民合意を軽視しており、他市のような住民参加型のプロセスを導入すべきである。 ・行政が前向きな姿勢を持たなければ、住民も未来に希望を持ってない。 	<p>一関市総合計画基本構想に掲げる将来像や基本目標を達成するためには、市民の声を聞くことは重要であり、必要不可欠であると考えております。</p> <p>今後も、一関市総合計画審議会と市において、市民の声を聞きながら、計画の策定、推進をしてまいります。</p>
6	<p>18ページ こどもの学びの環境づくり</p> <p>目指す姿の実現に向けた取組のなかで「市外からの学生の受入れに係る環境づくり」とあるが、一関市に住みながら市外の高校、大学、専門学校、予備校などの学校に通学している学生にも目を向けてほしい。学生の中には、県外の学校に新幹線や東北本線、高速バスなどの公共交通機関を利用して通学している学生も多くおり、特に新幹線通学をしている学生の人数は年々増加していると聞く。一関市に残りながら学びを得ようとしている学生のための支援について、検討してほしい。</p>	<p>一関市総合計画基本構想に掲げる将来像や基本目標を達成するためには、市内に住みながら市外の学校に通う学生に目を向けることは重要な視点と考えております。</p> <p>いただいたご意見に関する基本的な考え方や方向性は本計画に含まれていると捉えております。具体的な施策については、今後、市において検討、推進される予定です。</p>
7	<p>33ページ 工業の振興</p> <p>34ページ 多様な働く場づくり</p> <p>36ページ 働くことにつながる環境づくり</p> <p>目指す姿の取り組みが良いと思った。 次のステップの具体的な事業計画に期待する。</p>	<p>一関市総合計画基本構想に掲げる将来像や基本目標の達成に向けて、計画を推進してまいります。</p>

番号	ご意見の概要	ご意見に対する考え方
8	<p>12ページ 重点プロジェクト</p> <p>重点01 若者女性外国人が輝けるまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢化は予見されていた問題であり、将来を見据えた政策がなかったことが問題である。 ・長期的視点の政策が必要であり、他自治体の人口流出・少子化対策の成功例を参考にしつつ、一関独自の施策を実行してほしい。 ・若者が結婚・出産できるよう、安定した収入と生活基盤の整備が重要である。 ・以前よりも地方の魅力が再認識される風潮があり、田舎暮らしを希望する人たちが都会で大きな災害にあってをを考え地方に移住を考える人も多いのではないか。 ・一人ひとり「思い込み」からの脱却のためのアプローチは、年配者から始めるのがよいと思う。【01】には、高齢者も含めるべきである。 <p>重点02 ILCの実現を見据えたまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ILCは実現性が低く、国が最終の答えを出したのにもかかわらず期限を延ばしてきたのは推薦している人たちである。 ・国・県・市に財政的余裕はなく、欧州の専門家も日本に期待しておらず、実現性のない事業に予算を支出するのはもったいない。 ・介護保険料の急騰や物価高騰により、市民生活が圧迫されている。 ・こども食堂の閉鎖も全国では懸念されているような状況であり、予算は市民の生活を守ることを優先に執行してほしい。 <p>重点03 駅東口工場跡地の利活用などによる一ノ関周辺のまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アクセスの良い土地への工場誘致には反対である。 ・市民の安全が第一であり、放射能汚染物質や原発の廃棄物処理場に手を挙げないことを強く望む。 ・駅の東西自由通路は実現してほしい。 <p>重点04 DX推進による快適で持続可能なまちづくり</p> <p>DX自体良くわからず、それを推進することが本当によいのかどうか疑問である。</p>	<p>ご意見に対する考え方</p> <p>一関市総合計画基本構想に掲げる将来像や基本目標を達成するためには、市民の声を聞くことは重要であり、必要不可欠であると考えております。</p> <p>今後も、一関市総合計画審議会と市において、市民の声を聞きながら、計画の策定、推進をしてまいります。</p>

番号	ご意見の概要	ご意見に対する考え方
9	<p>12ページ 重点プロジェクト</p> <p>重点01 若者女性外国人が輝けるまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若者の受け皿となる教育・就職・企業誘致・起業支援が必要である。 ・「女性」に限定するのではなく、「子育て家庭」に焦点を当てるべきである。 ・「外国人」はゲストであり、優先順位を上位にするのは違うと思う。 <p>重点02 ILCの実現を見据えたまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・費用対効果が低く、実現性も不透明で、一関市には不要プロジェクトである。 ・将来を見据えた、教育機関の誘致や雇用先の受け皿になる企業誘致に重点を置くべき。 ・「北上高地に核廃棄物最終処分場を誘致しない」と市として宣言すべきである。 <p>重点03 駅東口工場跡地の利活用などによる一ノ関周辺のまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内の一地域の土地活用であり、市の中長期計画の中での優先項目ではない。 ・市の玄関としての一ノ関駅を考えるのであれば、大船渡線沿線など地域交通体系全体を含めた活用計画を総括的に考えるべき。 <p>重点04 DX推進による快適で持続可能なまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・DXの定義が不明確である。あくまでも「道具」であり、道具を使うのを目的にするのではなく、どのような道具なら市民の使い勝手が良いかを考えてほしい。 ・DXを推進しても、一部の場所でしか使えなければ意味がない。特に情報格差が激しい旧東磐井郡地域に注力してほしい。 ・DXだけではなく、広大な市域における交通弱者への支援も計画に含めるべきである。 <p>計画案全体について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広大な市の総じて全体を見ていない。 ・旧西磐井・旧東磐井を両輪とし、市民の声を聴き、各地域の施設、文化、教育を生かしながら、住みよいまちを目指すのが総合計画であるが、東磐井地域のことを考えていない。 ・これの最たるものが北ノ沢の一般廃棄物最終処分場計画であり、住民の強い反対があり、都市計画上の問題もある。 ・一過性のイベント(例:TGC)に多額の予算を使う一方、地域の祭りや行事は予算や人員が不足して苦しんでいる。 ・地域や住民の声を聞いてくみ上げながら、総合計画を構築しなおすべきである 	<p>一関市総合計画基本構想に掲げる将来像や基本目標を達成するためには、市民の声を聞くことは重要であり、必要不可欠であると考えております。</p> <p>今後も、一関市総合計画審議会と市において、市民の声を聞きながら、計画の策定、推進をまいります。</p>
10	<p>30ページ 自然と資源の保全</p> <p>千厩町の一般廃棄物最終処分場について、この場所は「21 多様な働く場づくり」を踏まえた工場や企業を誘致するのがふさわしい。「18 農林業の振興」に関連して、農業と観光を組み合わせた施設も適していると思う。</p> <p>人口が増えるきっかけにもなり、千厩町の魅力と楽しさを広めることもできる。街の中の一等地を最終処分場にしないいただきたい。</p>	<p>一関市総合計画基本構想に掲げる将来像や基本目標を達成するためには、市民の声を聞くことは重要であり、必要不可欠であると考えております。</p> <p>今後も、一関市総合計画審議会と市において、市民の声を聞きながら、計画の策定、推進をまいります。</p>